「学びに向かう力を高める自己分析と他者からのフィードバックの活用」

1. ねらい

学習者が成長力アンケートの結果を自己分析することを通じて、学びに向かう力の現状を把握する。また、友人や生成 AI から得たフィードバックを吟味し、課題を明確化して解決しようとする態度を育成する。

これにより、自己成長に対する主体性と他者からの助言を有効活用する力を育てることを目指す。

2. 指導目標

- ・成長力アンケートの結果を自己分析し、現状を正確に把握する。
- ・友人からのフィードバックや生成 AI の評価・助言を通じて、他者の視点を理解する。
- ・自己の課題を明確にし、解決に向けた行動計画を立てる。

3. 評価規準

- ・アンケート結果を適切に解釈し、自己の現状を正しく分析できる。
- ・友人や生成 AI からの助言を基に、自分の課題を的確に見出すことができる。
- ・明確化した課題に基づいて、具体的な解決策や行動計画を立てられる。

4. 学習活動の流れ

学習活動	教師の支援や指導内容	生徒の活動					
	10月8	日(火)					
導入 (10 分)	・学びに向かう力について、成長力アンケートと関連付けて簡単に説明する。 ・成長力アンケートの結果を配付する。	・教師の説明を聞き、学びに向かう力の重要性 について理解する。					
展開① (20 分)	・成長力アンケートの結果を元に、各自で自己分析シートを記入させる。・自己分析の視点を整理し、強みや改善点を見つけるポイントを説明する。	・アンケートの結果を見ながら、自己分析シートに自分の強みや課題を書き込む。					
展開② (20 分)	・生成 AI を利用したフィードバックの方法を説明する(生成 AI を活用して課題に対する助言をもらう方法など)。	・生成 AI を活用して自分のアンケート結果に対するフィードバックを受ける。					
まとめ (10 分)	・自己分析シートと生成 AI のフィードバックを元に、各自が自己の課題と新たな目標を明確にする。 ・課題と解決策を整理し、次の授業でそれを元に行動計画を立てる準備を促す。	・フィードバックを参考に、自分の課題と解決 策を明確にし、行動計画を立てる準備をする。					
	10月9日(水) 本時						
導入 (10分)	・前時の生成 AI フィードバックを振り返り、グループで話し合う準備をする。						

学習活動	教師の支援や指導内容	生徒の活動
展開① (20 分)	・生徒をグループ(班)にして、自己分析や生成 AI のフィードバックを基に、 互いに助言や意見交換を促す。	・各自の自己分析結果と生成 AI のフィードバックに基づいて、グループメンバーから追加のフィードバックをもらい、より客観的な視点を得る。・フィードバックを受けて、自己の課題や改善点について新たな視点を取り入れる。
展開② (20 分)	・フィードバックを受けて、自己の課題 とそれに対する行動計画を立てる時間 を取る。・教師は必要に応じてサポートする。	・各自がフィードバックを基に、解決すべき課題とそのための具体的な行動計画を明確にする。
まとめ (10 分)	・次回の授業で発表する準備を促す。	・各自の行動計画について、グループ内で発表し、意見を交換する。・他のメンバーのフィードバックを基に行動計画の修正や改善を行う。

5. 準備物

- 成長力アンケート(事前に生徒が解答済み)
- 自己分析シート ※生成 AI (チャット GPT-4o) でフィードバックシートを事前に教師が作成
- 自己成長力の振り返り・目標設定シート

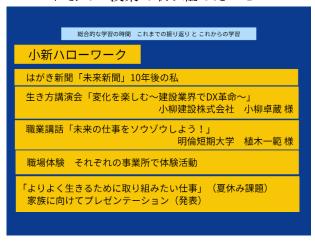
6. 指導上の留意点

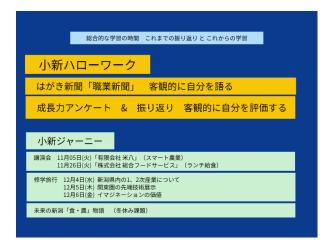
- 生成 AI を活用する際、個人情報の保護に留意し、入力は事前に教師が行う。
- 友人からのフィードバックは建設的であることを重視し、互いに尊重し合う姿勢を持たせる。
- アンケートの結果に対する自己批判的な姿勢を促す一方で、自己肯定感を持つことも重要である ことを指導する。

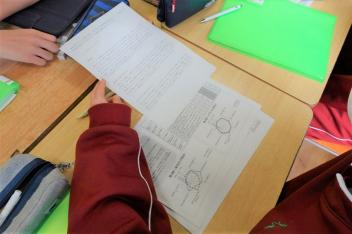
7. 振り返り

- 自身の振り返りから自己理解を深め、今後の成長に対して主体的に考えることができたか。
- 生成 AI からのフィードバックをどのように吟味して、有効活用することができたか。
- 生徒同士のフィードバックを行うことで、課題を明確にして目標を立てることができたか。

<これまでの授業で取り組んだこと>







【文部科学省 リーディング DX・生成 AI パイロット校】

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年10月9日(水)第5校時 指導者 教諭 (3年1組)

(3年2組)

(3年3組)

1 単元名「小新ロボット」~ロボットを通して未来を予測し、自らの生き方を考える~

2 単元の目標

- 現代のロボット技術や Society 5.0 に関する基本的な知識を理解し、災害や福祉における具体的な応用方法を説明できるようにする。また、生成 AI の機能とその活用方法についても理解し、それを学習に活用できる。【知識・技能】
- テクノロジーの進化を通して未来社会を予測し、防災や福祉分野における課題に対する解決策を自ら考え、それを具体的な形で表現する。企画したロボットやアプリケーションを通して、自分たちの未来予測を的確かつ論理的に表現できるようにする。【思考・判断・表現】
- 自ら学習に積極的に取り組み、生成 AI やテクノロジーに関する学習を通して、社会の課題に対して自主的に解決策を考える姿勢を養う。グループ活動を通じて協働し、他者の意見を取り入れながら、自らの学びを深める。【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元の評価規準

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 ① ロボット技術や ① 災害発生時に直面する課題 ① 学習に対して積極的な姿勢 AI に関する基礎 を的確に認識し、それに対 を見せ、生成 AI の活用やロ ボット技術を学ぶ際に、自 知識を正確に理 する創造的な解決策を考え 解し、それを防災 出し、論理的に説明できて らの学びを主体的に深めよ や福祉の分野に いるか。 うとしているか。 応用できるか。 ② グループ活動を通じて未来 ② グループ内で協力し、他者 ② Society 5.0 や生 の意見を尊重しながら、自 の課題を解決するためのア 成 AI の活用法に らの役割を果たし、学びを イデアを、効果的に表現し、 ついて、具体的に 作品や発表を通じて発信で 進めようとしているか。 説明できるか。 きるか。 ③ 自己の学びを振り返り、課 ③ ICT と生成 AI の ③ 小説やロボット企画の執筆 題解決に向けた活動を通じ 利用に伴う利点 において、未来社会の設定 て、自分の成長や将来の生 とリスクを適切 やストーリーが一貫してお き方について主体的に考え に評価し、学習に り、創造的かつ論理的に表 ようとしているか。 活かせているか。 現できているか。

4 単元と指導の構想

(1) 生徒の情報活用能力の向上を図る(情報モラル・安全教育を含む)。

中学生年代で身につけておくべきスキルや態度を明確にし、習得場面を単元内に 適切に配置する。情報モラルは年度当初の GIGA 開きの際に再確認し、著作権などの 法的知識は道徳授業と関連付けて学ぶ。情報の収集・選択能力、整理・加工能力は、ICT端末と図書館資料を併用して活用し、探究過程で収集した情報の中からより良い情報を選択する経験を積ませる。情報の発信・共有能力は、新聞記者になりきり自分の取組をレポートさせたり、同級生や家族の前で発表する機会を設けたり、小説のWeb公開の機会を設けたりして、読み手を意識した発信・共有を行う。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を行う。

未来の社会・テクノロジーの探究では、一人一人の興味や関心に応じて課題を設定させ、調査方法や表現方法についても自己決定させる(個別最適な学び)。一方、探究過程では意見交換や他者参照の場を設ける。調査結果は全体で共有し、未来の社会・テクノロジーについて多面的に捉える工夫をする(協働的な学び)。

未来防災小説の執筆では、起承転結の各章を4人から5人で分担する。それにより、責任の所在を明確にするとともに、小説内にそれぞれの考えや工夫を盛り込みやすくする。一方で、物語に一貫性を持たせるためには話し合いが不可欠であり、学習条件を工夫することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

(3) 生成 AI 活用「8つの学習原則」に基づいて学習活動を行う。

第1原則 創造力や問題解決力、思考力を身に付ける

生徒がロボット技術や Society 5.0 に関する知識を学び、災害や福祉分野での応用方法を考え、解決策を具体的な形で表現する活動を取り入れる。生成 AI を活用して、生徒の発想にはない視点を加え、創造力や問題解決力、思考力を高める。

第2原則 最初から最後まで自分で考える

生徒が自らロボットやアプリを設計し、課題解決策を考え、責任を持って制作する。生成 AI をサポートツールとして活用しつつ、最終的な判断や構想は生徒自身が行うことを大切にする。

第3原則 思考の補充、修正、改善を行う

生成 AI の助言を基に、ロボットの企画や未来防災小説を改善・校正し、よりよい解決策や作品を目指すプロセスを大切にする。生徒が生成 AI を活用して発想を補完し、他者と協働してより質の高いアイデアを形成する場面を設ける。

第4原則 想像、空想、架空、仮想を大切にする

生成 AI を活用して、未来のロボットやアプリの構想を膨らませる。ロボットの構想や未来防災小説の執筆を通じて、仮想の未来を探究し、創造的な視点を広げる活動を取り入れる。

第5原則 AI リテラシーを育て AI 依存を防ぐ

生成 AI リテラシーの育成を目指す講演やシンポジウムを開催した上で、夏休みに 生成 AI 活用レポートを作成し、家族の前で発表する機会を設ける。この活動を通し て、生徒は AI の利点とリスクを評価しながら使用するスキルを養う。また、生成 AI の提案を鵜呑みにせず、最終的な判断は生徒自身が行うよう促す。

第6原則 文化や価値観などの多様性と包摂性を尊重する

生成 AI を活用することで、一人一人の意見を尊重するとともに、多様な考えを含む意見集約を行う。また、生徒同士や生成 AI との協働学習の場を積極的に設ける。

第7原則 実体験との結びつけを重視する

能登半島地震を教訓としながら避難訓練や避難所運営ゲーム(HUG)を行う。介護ロボットを実際に操作し、その機能や役割、現時点でのロボット技術を理解する。

第8原則 批判的思考力を身に付ける

生成 AI が提案するアイデアを鵜呑みにすることなく批判的に吟味し、適切に評価した後、アイデアを生徒自身の視点で再構成させる。

5 単元の指導計画(全50時間)

5	甲元の指導計画(全50時間) 						
時	学習のねらい(○)と主な活動内容(・)				評価	8	
	○ ナ 士 牡 人) z 払 上 z 畑 叶	和	芯	悲		step	
春	○未来社会に対する興味・関心を持つ。				学習に対して積極的な姿	導入	
休	・自身が興味や関心のある事柄の未来を			1	勢を見せ、自らの学びを	300 Hz	
4	記者になりきり「はがき新聞」として、				主体的に深めようとして	課題	
	客観的に表現する。				いるか。	設定	
	○リテラシーや情報モラルを確認する。				ICTの利用に伴う利点と		
1	・GIGA 開きを通して、iPad 使用におけ	3			リスクを適切に評価し、		
	るマナーとモラルを再確認し、ICTを効				学習に活かせているか。		
	果的に学習に活用するようとする。						
[4	を知る】 ~発災時における対応や、ロオ	ヾット	▶技術	うりゅう うりゅう うりゅう かんりゅう かんりゅう かんりゅう かんりゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	"今"を知ろう~		
2	○災害発生時における課題を発見する。				災害発生時に直面する課題を	計画	
Ī	・中学1年時に学習した防災学習を振り		1		的確に認識し、それに対する	立案	
7	返るとともに、HUG(避難所運営ゲー		1		創造的な解決策を考え出し、	実験	
'	ム)を通して、発災時の課題を知る。				論理的に説明できているか。	大吹	
8	○DX の必要性や可能性を知る。				学習に対して積極的な姿		
	・講師の著書で事前学習をした後、ホロスト			1	勢を見せ、先端技術を学	学び	
10	ラクションを導入し、建設業界 DX を実現した			1	ぶ際に、学びを主体的に	直し	
10	小柳建設株式会社 社長の講演を聞く。				深めようとしているか。		
	○現代で活躍するロボットを知る。				福祉分野におけるロボ		
11	・吉藤健太郎さんが開発した分身ロボッ				ットの活用法につい	考察	
	トが障害者雇用の可能性を広げているこ	2			て、具体的に説明でき	制作	
15	とや、現在、様々な分野でロボットが活				るか。	表現	
	躍していることを、探究を通して知る。						
	○依存症を知り、心身の健康を考える。				薬物のみならず ICT の		
16	・学校薬剤師をお招きして、薬物乱用防	3			利用に伴う利点とリス		
10	止教室を開催する。薬物依存に関連して	5			クを適切に評価し、学		
	スマホ依存も取り上げ、注意を促す。				習に活かせているか。		
【爿	₹来を知る】~官民一体となり目指す"未来	€" <i>0</i>)姿?	を知り	り、その技術を体験しよう	う∼	
	○目指すべき Society5.0 の姿を知る。				Society 5.0 や生成 AI の		
17	社会の様々な課題がテクノロジーを活				活用法について、具体的		
	用して解決されていく、人間中心の社会	2			に説明できるか。	導入	
20	構想を知り、自身が興味・関心のある分						
	野における未来像を具体的に描く。						
	○AI 開発の意義,研究者の考えを知る。				協力し、他者の意見を尊		
0.1	・学年道徳で教材「鉄腕アトムをつくり			0	重しながら、自らの役割	課題	
21	たい」を読み、AI研究者が、どのよう			2	を果たし、学びを進めよ	設定	
	な思いで開発に携わっているかを知る。				うとしているか。		
	○生成 AI リテラシーを理解する。				生成 AI の利用に伴う利点	최군	
22	・講演を通して生成 AI とは何か、生成	3			とリスクを適切に評価し	計画	
	AI リテラシーとは何かを理解する。				ているか。	立案	
	○生成 AI 活用の注意点を理解する。				協力し、他者の意見を尊		
	・コメンテーターとして、ChatGPTと			_	重しながら、自らの役割	دست با	
23	Gemini をお招きし、小新ポジウムを開			2	を果たし、学びを進めよ	実験	
	催する。活用法について意見を交わす。				うとしているか。		
<u> </u>		l			, C C C V 0/4 0	<u> </u>	

						8
時	学習のねらい(○)と主な活動内容(・)	知	思	態	評価規準	step
	○生成 AI 活用の長所. 短所を理解する。				ICT と生成 AI の利用に伴	学び
	・「生成 AI を学ぼう 生成 AI で学ぼう」				う利点とリスクを適切に	直し
夏	と題して、長期休業中に生成 AI を試験				評価し、学習に活かせて	
休	勉強や受験勉強に活用する。	3			いるか。	考察
み	・活用して分かった生成 AI 利用のメリ					
	ットとデメリットを「生成 AI 活用レポ					制作
	ート」にまとめ保護者の前で発表する。					表現
	○生成AI活用レポートを価値づける。				Society 5.0 や生成 AI の	
24	・「活用レポート」を校正し提出する。				活用法について、具体的	
24	・夏休みに探究した自分自身を新聞記者	2		3	に説明できるか。学びを	価値
27	になりきり「はがき新聞」で表現する。			J	振り返り、自分の成長に	づけ
21	・保護者の前で発表したレポートを友達				ついて主体的に考えよう	
	の前でも発表し、ビデオ撮影をする。				としているか。	
【未	来を創造する】〜私たちが抱える課題を見	しつと	り、角	彈決 [1
	○発災時の困り感から課題を発見する。				災害発生時に直面する課	
28	・2040 年に大地震が発生した場合(特		1		題を的確に認識し、それ	導入
20	に福祉分野)、どんな問題や困りごとが		1		を論理的に説明できてい	77/
	生じるかを、まずは自分たちで考える。				るか。	
	○課題に対する解決策を考える。				災害発生時に直面する	
	・生成AIから自分たちに予見できなか				課題に対する創造的な	課題
29	った問題や困りごとを指摘してもらう。		1		解決策を考え出し、論	設定
	・課題に対して、どのようなロボットや				理的に説明できている	HX/C
	アプリが必要かを自分たちで考える。				か。	
	○未来に役立つロボットを企画できる。				グループ活動を通じて未	
	・生成AIから自分たちにはない視点か				来の課題を解決するため	計画
30	らの解決策を提示してもらう。		2		のアイデアを、効果的に	立案
	・自分が企画するロボットやアプリを、				表現し、作品や発表を通	714
	より具体的に、細部まで構想する。				じて発信できるか。	
	○福祉ロボットを体験し理解を深める。				ロボット技術に関する基	調査
31	・さくらメディカル株式会社から提供し	1		1	礎知識を理解できるか。	実験
	ていただいた福祉ロボットを体験し、そ				自らの学びを主体的に深	実践
	の必要性や便利さを実体験する。				めようとしているか。	
32	〇ロボットの完成図を作成できる。				グループ活動を通じて未	-11
	・Canva を活用して、自分が構想したロ		2		来の課題を解決するため	計画
本時	ボットやアプリの完成予想図や、使用方				のアイデアを、効果的に	立案
	法を映像化し、構想を具現化する。				表現しているか。	
33	○ホロストラクションを実体験し、理解を深める。				ロボット技術に関する基	調査
	・小柳建設株式会社から講師をお招きし	1		1	礎知識を理解できるか。 ウェの学びな主体的に深	実験
34	ホロストラクションの体験会を行う。体験を通して、ヒヒッ゚ターターターススースースースースースースースースースースースースーー				自らの学びを主体的に深	実践
10/16	て、防災や福祉分野での応用を考える。				めようとしているか。	
35	○未来防災小説の執筆方法を知る。				学習に対して積極的な姿	弘献
	・オリエンテーションに参加し、小説の			1	勢を見せ、自らの学びを	計画
10/23	時代設定や内容、共同執筆で行うことを				主体的に深めようとして	立案
	理解する。				いるか。	

п±:	労団のかと」、(○) 1. →れ江野中安()				評価	8
時	学習のねらい(○)と主な活動内容(・)	知	思	態	評価規準	step
36	○未来防災小説の設定を構想できる。				ロボットに関する基礎知	豐
10/30	・制作チームの企画会議で構想を練る。	1			識を防災や福祉の分野に	立案
10/00	登場人物の設定や粗筋を話し合う。				応用できるか。	业末
	○未来防災小説を主体的に執筆する。				基礎知識を理解し、それを	
37	・2040年に新潟市西区が大地震に見舞				防災や福祉の分野に応用	考察
	われる設定で小説を執筆する。	1		2	できるか。課題解決のた	制作
39	・起承転結を分担し、執筆する。それら				めのアイデアを、効果	
	をつなぎ合わせて1つの小説を作る。 ○規則を守って行動する態度を育てる。				的に表現できるか。 著作権に配慮した、生成	
40	・著作権について道徳教材を読み、友達	2			AI の活用法について、具	学び
40	の助言を参考に認識を深める。道徳 p77				体的に説明できるか。	直し
	○法を守って行動する判断力を育てる。				著作権に配慮した、生成	
41	・著作権侵害について、四コマ漫画や生				AIの活用法について、具	学び
	成AI、友人との意見交換を通して認識	2			体的に説明できるか。	直し
11/22	を深め、遵法精神を育む。道徳 p82				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
40	○生成 AI の助言を吟味し選択できる。				生成 AI の利用に伴う利点	
42	・班の未来防災小説を生成 AI に読み込	3			とリスクを適切に評価	学び
12/4	ませ、書評を吟味する。よりよい小説に	3			し、学習に活かせている	直し
12/4	するための方向性を話し合う。				カゥ。	
43	○校正し、未来防災小説を完成できる。				未来社会の設定やストー	
	・生成 AI の助言をもとに、各自が担当		3		リーが一貫しており、創	考察
$\begin{vmatrix} 1 \\ 44 \end{vmatrix}$	する章の校正、及び手直しをする。				造的かつ論理的に表現で	制作
- 1 1					きているか。	
Ħ	○未来防災小説の価値を確認する。				自己の学びを振り返り、	
冬	・自作した未来防災小説を家族から読んでするといる。			0	課題解決に向けた活動を	討論
休力	でもらい、感想を聞き取る。家族との対			3	通じて、自分の成長や将	表現
み	話を通して、地域の未来を思うことの意義を再確認する。				来の生き方を主体的に考 えようとしているか。	
	○自作小説の意味や価値を表現する。				ースようとしているか。 自己の学びを振り返り、	
45	・未来防災小説を完成させた自分たちの				課題解決に向けた活動を	討論
	取組を新聞記者になりきり、工夫点を含			3	通じて、自分の成長を考	表現
46	めて「はがき新聞」として表現する。				えようとしているか。	27.0
47	○生成 AI の価値づけを吟味する。				生成 AI の利用に伴う利点	<i> </i> ⊥⊾
	・生成 AI に小説を読ませ、作品の良さ	3			とリスクを適切に評価し	価値
2/10	や価値、執筆した意義を再確認する。				学習に活かせているか。	づけ
	○中学校卒業後の生き方を表現できる。				自己の学びを振り返り、	
48	・ロボットに代表されるテクノロジーに				課題解決に向けた活動を	価値
	関する学習を通して、未来をどのように			3	通じて、将来の生き方に	づけ
49	予測し、自分は、どのような生き方をし				ついて主体的に考えよう	71)
	ていきたいのかを文章で表現する。				としているか。	
50	○3年間の小新クエストを振り返る。				自己の学びを振り返り、	Just 2.1:
	・これまで小新クエストで学んできた防			3	将来の生き方について主	価値
2/26	災. 福祉. 職業. 地域文化. ロボットの学習				体的に考えようとしてい	づけ
	を振り返り、自らの成長を実感する。				るか。	

- 6 9月27日(金) 5限の計画(31時間目/全50時間)
 - (1) 本時のねらい

現代のロボット技術について、講師の方の説明や福祉ロボットの実体験を通して 理解を深め、ロボット技術を積極的に防災や福祉の分野に応用しようとする。

- (2) 本時の構想
 - ア 福祉にロボットを導入されている方と対話する機会を設ける。

現在、市販されている介護ロボットについて、実際に現場で活用している方から話を聞く。介護ロボットが、介護する側・介護される側に身体的・精神的にどのような影響を与えるのか、生の声をお聞きする。さらに、災害時や将来的にどのようなロボットの開発が望まれるのかをインタビューする。

イ 福祉の分野で導入されているロボットを実体験する。

当日は、体育館にアシストスーツや、電動車椅子、癒しのペット型・家族型コミュニケーションロボットを準備する。学年を2グループに分け、1人1人が様々なロボットを体験し、その良さを実感できるように工夫する。

(3) 本時の展開

教師の働き掛けと予想される生徒の反応	■評価規準 ○留意点
T1. 今日は、介護ロボットを体験	
させていただきます。体験を	○本時のねらいや目標
通して、様々なことを学んで	を明確にする。
いきます。	
【学習課題】	
福祉では、ロボットがどのよ	
うな役割を果たしているか?	■学習に対して積極的
T2. ロボットを操作して、どんな	な姿勢を見せ、ロボット
ことに気づきましたか?	技術を学ぶ際に、自らの
S1. 少しの力でも物を持ち上げ	学びを主体的に深めよ
ることができる。	うとしているか。
S2. 自由に動くことができる。	
	○複数の介護ロボット
T3. 福祉に関わる人に質問して、	を効率よく体験できる
何が分かりましたか?	よう、声掛けを行い、人
S3. ロボットは精神的な負担も	数調整を行う。
軽減している。	
【まとめ】	
介護ロボットは身体的、精	
神的な負担を軽減している。	
	■ロボット技術に関す
とをまとめましょう。	る基礎知識を正確に理
	解し、それを防災や福祉
	の分野に応用できるか。
	 T1. 今日は、介護ロボットを体験をさせて、体々なことを学んでいきます。 【学習課題】 福祉では、からからいるからできまりでしたがらいるができる。 T2. ロボットを操作して、がらいるができる。 S1. 少ことができる。 S2. 自由に動くことができる。 T3. 福祉に関わる人に質問して、何が分ットは見かりまけれる。 「33. ロボットは射体的なりまりますがある。 「4. 体験会を通して分かったこ

(4) 評価

- ロボット技術に関する基礎知識を正確に理解し、それを防災や福祉の分野に応用できるか。【知識・技能】
- 学習に対して積極的な姿勢を見せ、ロボット技術を学ぶ際に、自らの学びを主体的に深めようとしているか。【主体的に学習に取り組む態度】

7 9月27日(金) 6限の計画(32時間目/全50時間)

(1) 本時のねらい

防災や福祉に役立つロボットやアプリケーションについて、生成 AI との対話やグループ活動を通じて発想を広げ、未来の課題を解決するためのアイデアを選択・表現することができる。

(2) 本時の構想

ア 生成 AI を活用して、自分の発想にはない視点を加える。

ChatGPT を活用して、自分にはない視点や着眼点から、現在のロボットやアプリケーションにはない、必要とされる機能に気づく。また、ChatGPT の回答を手掛かりとして、友達と話し合ったり、自身で再考したりする時間を確保することで、前時では気付かなかった、より良い機能をもつロボットやアプリケーションを構想することを後押しする。

イ 思考ツールを活用して、考えを構造化する。

開発を目指すロボットやアプリケーションの構想を思考ツールで表現させる。 それにより、企画者が災害発生時のどのような問題に強く課題意識を持ち、その 課題に対して、どのようなアプローチをして解決につなげようとしているかを 周囲にも分かりやすく表現させる。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される生徒の反応	■評価規準 ○留意点
【導入】	T1. 前回、ロボットやアプリの機	○視点や発想を広げる
・本時の学習課題を	能を考えました。今日はアイ	ことが本時のねらいで
理解する。	デアをさらに広げます。	あることを確認する。
【展開】	【学習課題】	
・生成 AI を活用して アイデアを膨らめ	どんな機能をもつロボットや アプリを開発すればよいか T2. ChatGPT を活用して自分に はない視点から提案しても	■生成 AI との対話を通じて発想を広げているか。
る。 ・友達からの助言を 参考に、機能を絞り	らいましょう。 S1. 量子コンピュータって何? T3. ChatGPT の提案を手掛かり に話し合い、アイデアを膨ら めましょう。	■グループ活動を通じ て発想を広げたり、選択 したりしているか。
込み、思考ツールに入力する。	S2. そんな高価なロボットは、普及しないのではないか!?【まとめ】自分は○○な機能を備えたロ	○話し合いを行いながら、自分の考えを思考ツールでまとめさせる。
【終末】	ボット (アプリ) を提案する。 T4. 余裕のある人は自分の構想	○次回、ロボットのイメ
・構想を明確化し、	を周囲と共有しましょう。	ージ図を作成するため、
周囲に発表する。	S3. (周囲と共有する)	具体的な構想が必要。

(4) 評価

■ 防災や福祉に役立つロボットやアプリケーションについて、生成 AI との対話や グループ活動を通じて発想を広げ、未来の課題を解決するためのアイデアを、選 択・表現することができるか。【思考・判断・表現】

6 10月9日(水) 5限の計画(32時間目/全50時間)

(1) 本時のねらい

防災や福祉に役立つロボット・アプリについて、生成 AI の活用やグループ活動を通じてアイデアを効果的に具現化し、言葉やイメージ図を用いて表現できる。生成 AI との対話を通して、より具体的な指示の大切さに気付く。【思考・判断・表現】

(2) 本時の構想

ア 言葉だけでなく図で示させる。

自分が企画したロボットやアプリの有用性や必要性を、自分の言葉で表現する補助として、使用場面や製品の完成形を図として表現させる。

イ 描画に対する嫌悪感を取り除く。

希望する生徒には、生成 AI (Canva や ChatGPT) をツールとして開放することで作図に対する苦手意識を取り除き、作図に集中させる。

ウ 創造性を刺激する。

生成 AI を作図に利用することで、試行錯誤を繰り返すサイクルを早め、より自分の希望に即した作図を行わせる。さらに、試行錯誤の中で、自分自身が思いつかなかったアイデアを取り入れさせ、提案性の高い企画へと近づける。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される生徒の反応	■評価規準 ○留意点
【導入】	T1. 前回、ロボットやアプリの機	○視点や発想を広げる
・本時の学習課題を	能を考えました。今日は製品	ことが本時のねらいで
理解する。	のイメージ図を作成します。	あることを確認する。
【展開】	【学習課題】	■生成 AI との対話を通
	どのような指示を出すと自	じて発想を広げている
	分の意図した作図になるか。	か。
	T2. 自分のイメージを詳しく言	○どのような指示を出
・生成 AI を活用して	語化して、生成 AI から作図	すと意図した作図にな
アイデアを具現化す	してもらいましょう。	るか、絵を描きながら試
る。	S1. 私のイメージと違う!	行錯誤をさせる。
	T3. Canva や ChatGPT を活用して	○最終的に、手書きを選
	自分にはない視点からも提	択してもよい。
	案してもらいましょう。	■グループ活動を通じ
・友達からの助言を	S2. そんな高価なロボットは、普	て発想を広げたり、選択
参考に、作図を工夫	及しないのではないか!?	したりしているか。
する。	【まとめ】	○話し合いを行いなが
	より具体的な指示を出すと	ら、自分の考えを思考ツ
	自分の意図した作図になる。	ールでまとめさせる。
【終末】	T4. 余裕のある人は自分の構想	○次回、ロボットのイメ
・構想を明確化し、	を周囲と共有しましょう。	ージ図を作成するため、
周囲に発表する。	S3. (周囲と共有する)	具体的な構想が必要。

(4) 評価

防災や福祉に役立つロボット・アプリについて、生成 AI の活用やグループ活動を通じてアイデアを効果的に具現化し、言葉やイメージ図を用いて表現できたか。生成 AI との対話を通して、より具体的な指示の大切さに気付けたか。【思考・判断・表現】

7 参考文献

- ・ 『高等学校 探究授業の創り方』 田中博之 学事出版株式会社
- ・ 『授業で使える! 教師のための ChatGPT 活用術』 田中博之 学陽書房

【参考資料】 本校の教育活動・校務における生成 AI の活用の取組(2024年9月まで)

GIGA端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十全に活用するとともに、「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」を遵守した上で取組を実施し、具体的な事例の創出を行う(下線の数字は右上の日付)。

(1) 意見集約をするために活用

クラウド環境を活用し、生徒の考えを収集する。収集した考えは生成 AI を用いて内容ごとに項目立てて整理し、後日、結果は生徒に提示する。小グループ内で埋もれがちな個の意見を、学年全体での協働的な学びへと結び付ける。

【総合】体験企業が実施している SDGs の取組を集約してもらう。 SDGs 学習(1)

(2) 多面的な見方、クリティカルシンキングを育むために活用

生活経験が限られた中学生同士が協働すると、見方は限定的なものになりやすい。また友人関係への配慮もあり、フィルターバブル現象に似た状況が生まれる。生成 AI に様々な視点からの考えを作成させ、生徒に提示することで、視野や思考の拡張を図る。一方、生成 AI の作成した回答を鵜呑みにせず、吟味した上で共感するかしないかは、最終的に生徒に判断させる。生成 AI の回答を普段から吟味させることで、クリティカルシンキングの育成につなげる。

【理科】AIに仮説を追加してもらい、生徒がそれも吟味する。 0530

【道徳】AI に多面的な考えを提示してもらい、生徒がそれを吟味する。 0621

【道徳】生徒が問題解決の納得解を考え、AI が教材の続きを執筆する。0607 0627

【総合】発災時に起きる問題、生徒が考えた後、AI に補ってもらう。

(3) 助言(アドバイス)を得るために活用

生成 AI リテラシーに関するシンポジウムの際、ChatGPT と Gemini をコメンテーターとして活用し、生成 AI の学習利用について意見を求める。

夏休みには、試験勉強の伴走者として活用させる。問題集には解答とともに解説が掲載されているが、解説を読んでも理解できない生徒もいる。生成AIを活用して、より詳しい解説を作成させる。生成AIの活用を通して、その利点とリスクを適切に評価させる。

創作の過程で生成AIからのアドバイスを活用する。作文や新聞、物語がある程度、 完成した時点で生成AIに読み込ませることで、誤字脱字の発見や、よりよい作品作 りの手がかりを得る。

【総合】AI リテラシー教育として道徳、講演、シンポジウムを実施する。 0717

【総合】AI に探究に関わる楽曲を創作してもらい、生徒の士気を高める。 0723

【総合】生徒が「生成 AI 活用レポート」を作成し、家族の前で発表する。

→ 記者になりきり「はがき新聞」を作成し、取組をメタ認知する。 0719

(4) 意味付け・価値づけ、データ分析のために活用

学習の成果物(はがき新聞、未来の新潟「食・農」物語、未来防災小説)を生成 AI に読み込ませ、探究に対する意味付けや価値づけを行う。家庭学習力や自己成長力アンケートのデータ分析に生成 AI を活用することで、生徒の成長を明らかにし、自己肯定感や学びに向かう力、人間性の育成に役立てる。

【総合】生成 AI×中学3年「未来防災小説」 https://kyoiku.sho.jp/296776/

【学活】AI に家庭学習力アンケートの結果を分析してもらい、意味づける。 0730

【学活】AI に自己成長力アンケートの結果を分析してもらい、意味づける。 0730



第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和7年2月10日(月) 5限13:15~14:05 授業者

1 単元名 「小新ウェルフェア」 ~福祉について、大切な家族に伝えたいこと~

2 単元の目標

- ○探究的な学習の過程で、福祉に対する概念を形成し、地域福祉に関する基礎的な知識を 身に付けるとともに、探究的な学習の良さを理解する。………………【知識及び技能】
- ○実社会や実生活の中から、福祉に関する問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、 整理・分析して、まとめ・表現をする。 ・・・・・・・・・・・・・【思考力、判断力、表現力等】
- ○探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、講演会や提供された資料を生かしながら、積極的に家族に働きかけようとしている。 ・・・・・・・・・【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価基準

田識及び技能 思考を ① 今の福祉に関する現状 ① 自動を知り、福祉に関する正 様々 しい概念を形成してい て、 る。 から ② 日本では少子高齢化が てい 進んでいること、自分の ② 地域を

- ② 日本では少子高齢化が 進んでいること、自分の 住んでいる新潟市には、 福祉施設があったり、 様々な福祉グッズがある ことを理解している。
- ③ 家族構成や状況に応じて、適切に福祉に関する情報提供を行っている。

思考力、判断力、表現力等

- ① 自宅周辺の福祉施設や 様々な福祉グッズについ て、実社会や実生活の中 から必要性を考え、調べ ている。
- ② 地域福祉に関する情報 を、仕組みや特徴を含め、幅広く収集し、まとめ ている。
- ③ 家族に役立つ福祉情報 を、自分の興味・関心、聴 き手の必要性に応じて取 捨選択し、表現している。

学びに向かう力、人間性等

- ① 問いを立てる際、話し合いで挙がった意見や講演会の内容などから、自分が伝えたいことを選択し、スライドを作成しようとしている。
- ② 福祉に関する教科横断的 な探究では、他者の考え の価値を感じ取り、参考に しようとしている。
- ③ 未来の社会や家族の姿を 視野に入れ、よりよく生き るための提案を、家族に 継続的に行おうとする。

4 単元と指導の構想

(1) 単元と生徒

生徒たちは普段、福祉の内容についてあまり意識していない。しかし、自分や家族は確実に老いていき、福祉制度を利用することとなる。住み慣れた地域が超高齢化社会となる中で、福祉について知るとともに、積極的に関わる姿勢を育む必要がある。

(2) 指導の構想

道徳教材「私が働く理由」「エルマおばあさんからの最後の贈りもの」と関連づける。また、近隣の福祉施設を調べるとともに、済生会新潟病院、新潟市地域包括支援センター小新・小針から講師を招き、地域福祉について、講演をしていただく。また、身近に存在する学童保育やセーフティースタッフも、福祉の取り組みであることを知る。自ら設定した課題は、教科横断的に探究を進め、家族の前で発表する。

5 単元の指導計画(全13時間)

	/ - 1/	[導計画 (至 13 時間 <i>)</i>				= ₩ /#:
時期	探究	学習活動(○)と主な内容(・)		ш	۸.	評価
州口			知	思	主	評価基準(評価方法)
1) <u> </u> 구	○オリエンテーションⅠ				
10/17	導入	・探究「小新ウェルフェア」で学ぶことを知る。・福祉について、知っていることを挙げる。				
10/11		(道徳 「私が働く理由				
		・働くこととは、収入を得て自分や家族の生活を				・人々の仕事への思いや考え
11月	課題	維持する、役割を通して社会を支える、自己実			*	方などを知り、働くことの意 義や充実した働き方につ
上旬	設定	現を図るためのものであるなど、様々な面から				我で元美した働き力にする。 いて考えている。
		考える。				
2		○身近な福祉施設				・自宅周辺の福祉施設や 様々な福祉グッズについ
3	調査	・自宅周辺の自分や家族が利用することも考え られる福祉施設や様々な福祉グッズについて		1		て、実社会や実生活の中
11/8		調べて、まとめる。				から必要性を考え、調べて
,14		,, C.				いる。
4	⇒i 	○オリエンテーション II・冬休み中に行う探究の進め方について知る。				・問いを立てる際、話し合いで 挙がった意見や講演会の
	計画立案	・福祉を教科横断的に探究した場合、どのよう			1	内容などから、自分が伝え
11/21	五 余	な探究テーマが考えられるか、全体で考える。				たいことを選択し、スライド を作成しようとしている。
5		○これまでの学習をもとにテーマを決め、まとめ				
	考察	方を考える。	(3)			・家族構成や状況に応じて、 適切に福祉に関する情報
12/5	制作	・他教科との関連を考えて、発表内容を考える。				提供を行っている。
6	学び	○講演「介護福祉士と言語聴覚士」				・今の福祉に関する現状を知
	すし直し	・介護福祉士と言語聴覚士を講師に招く。	1			り、福祉に関する正しい概
12/12		・それぞれの職種が果たす役割を学ぶ。				念を形成している。
冬	少 . 宏	○個人テーマを探究 【 教科横断的な学び 】				・地域福祉に関する情報を、
休	考察 制作	・これまでの調査や講演会資料をまとめる。・設定したテーマを教科横断的に探究する。		2		仕組みや特徴を含め、幅
み	111111	・家族の前で発表し、家族から評価してもらう。				広く収集し、まとめている。
		○友達の前で発表				・福祉に関する教科横断的な
7	表現	・まとめた探究成果を、友達の前で発表する。				探究では、他者の考えの
8 1/9,16	討論	・発表の内容や仕方の良さを指摘する。			2	価値を感じ取り、参考にし
1/ 5,10		・友達の良さを、自分の発表にも活かす。				ようとしている。
	3pp b	○道徳「エルマおばあさんからの最後の贈りもの」				死を迎えようとするおばあさ
1月 下旬	課題設定	・生命の尊さについて、その有限性なども理解			*	んと家族を通して、尊厳あ る生と死について考えてい
上前		し、「命を大切に生きる」ために大切なことに ついて考える。				る生と死について考えている。
		○講話「福祉を取り巻く現状や福祉制度」				・日本では少子高齢化が進ん
_	20.5	・地域包括支援センターから講師を招く。				でいること、自分の住んで
9	学び	・福祉とは何か。超高齢化社会となる日本。	2			いる新潟市には、福祉施設 があったり、様々な福祉グ
1/31	直し	・地域包括支援センターが行っている業務。				ッズがあることを理解してい
						పే.
10		○スライドをよりよくする方法を考える。				・福祉に関する教科横断的な
10 2/5	考察	・友達と家族からもらったアドバイスをもとに改善			2	探究では、他者の考えの 価値を感じ取り、参考にし
4/ 0		案を個人で書きだす。				ようとしている。
-			_			

11 本時 2/10	考察表現	○スライドをよりよくする方法を考える。・生成 AI からもらったアドバイスをもとに改善案を個人で書きだす。・改善案を発表し合い、グルーピングする。・自分に合った改善案を見つける。	3		・家族に役立つ福祉情報を、 自分の興味・関心、聴き手 の必要性に応じて取捨選 択し、表現している。
12 2/13	制作	○スライドを修正する。・前時の内容をもとにスライドを修正する。	3		・家族に役立つ福祉情報を、自 分の興味・関心、聴き手の必 要性に応じて取捨選択し、 表現している。
13 2/20	価値づけ	○振り返り・自分の探究に取り組む姿勢を振り返る。・探究を通して、分かったことやできるようになったことを、文章として書き記す。		4	・未来の社会や家族の姿を視 野に入れ、よりよく生きるた めの提案を、家族に継続 的に行おうとする。

6 本時の計画(11時間目/全13時間)

(1) 本時のねらい

「家族に伝えたい大切なこと」をテーマにまとめたスライドを、保護者や友達、生成 AI からのアドバイスなどから再度見直す活動を通して、さらによりよいスライドにするために自分の興味・関心、読み手の必要性に応じて取捨選択した改善プランを立てることができる。

(2) 本時の構想

- ア 自分が探究してきた成果物を生成 AI に評価してもらい、その評価をもとに、工夫を加える。これにより、1人1人が自分のプレゼン用のスライドをより良くする方法を知る機会を確保する。
- イ 班で工夫を出し合う際には、自分にはない良さを積極的に見つけることを促す。そのことで、発表しやすい雰囲気を作るとともに、今後の参考とさせる。
- ウ 付箋1枚に1案書くことで、自分のアイディアを可視化し、取捨選択しやすいようにする。 またそれをワークシートに残し、1人1人がどのように作品をよりよくしていったかを確認 できるようにする。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される生徒の反応	■評価基準(観点/方法)・○留意点
【導入】	T1 冬休み前に「小新ウェルフェア」のスライドを作成し	○自分の最初に作
学習課題の	ました。出来栄えは自分的に何パーセントくらいで	ったスライドは改
設定	すか?	善の余地がある
(5分)	S1 80%くらい。/100%。	ことを確認する。
	T2 今日は、もっとよいスライドに仕上げるため、いろんな人からのアドバイスを取り入れて、「自分のスライド改善プラン」を作りましょう。 今日の学習課題はこれです。	○板書する。
	<学習課題> 自分のスライドをよりよくするためには、どんな工夫 を加えたらよいか。	OIXE / Vo

【展開】

生成 AI からのコ メントから、スラ イドの改善点を 考える

(15分)

T3 前回の授業で、友達と保護者の方からのアドバイスを受けて、4つの改善案を考えピンクの付箋に書きましたね。

初めて作ったスライドでしたが、皆さんまとめ方を工 夫していて、よかったです。

今日は、さらに心強いアドバイザーから、みなさん 一人一人にアドバイスメッセージが届いています。 生成 AI からのコメントシートを配布する。

- T4 皆さんが作ったスライドについて、生成 AI に評価してもらいました。皆さんのスライドの良い点と改善点が書いてあります。アドバイスコメントを読んでみましょう。
- T5 それでは、生成 AI からのアドバイスを受けて、生か そうと思う案を4つ選び、今度は黄色い付箋に書き ましょう。
- S2 もっとわかりやすくするために図を入れようかな。
- S3 生成 AI には具体的に書こうとアドバイスを受けたから、事例や体験談を入れようかな。

スライドをより良 くするためのエ 夫を班で出し合 う

(15分)

T6 さて、これから自分の出した改善案を班のみんなで共有し、さらにアイディアをふくらませましょう。 自分の出した8つのプランの中から、厳選した4つを選び、班のみんなに紹介します。

意見を出す際、ほかの人と同じような意見は、付箋を近くに貼って、最終的にはマーカーでグルーピングをしてください。例えば、内容は違うかもしれませんが、具体例を出すなどのグルーピングができます。

班の形になりましょう。

班長は模造紙とマーカーを取りに来てください。 準備ができたところから、始めましょう。

- S4 私は事例や体験談を入れようと思います。
- S5 僕は認知症になる年齢別グラフを入れようと思います。
- S6 図や写真を入れた方がいいと思っています。
- S7 じゃあ、具体例を入れる、図やグラフを入れるというグルーピングにしよう。

工夫を全体で 共有する

(5分)

- T7 では、班ごとに簡単に発表してもらいます。 発表係さん、お願いします。
- S8 僕らの班で出た改善案は、 「具体案を出す、図を書くです。」
- <まとめ>より効果的に表現するには
 - ・具体例を提示する
 - ・図やグラフを入れる

■家族に役立つ 福祉情報を、 つの興味・の の興味・の で 、読み手ので 要性に応じて 表現している。

【思考・判断・表現】 (提出された改善 シートにより評価)

○1つの付箋に1 つの案を書かせ る。

- ○TVでグルーピン グのやり方の例 を示す。
- ○模造紙、マーカー各班1セット配布する。

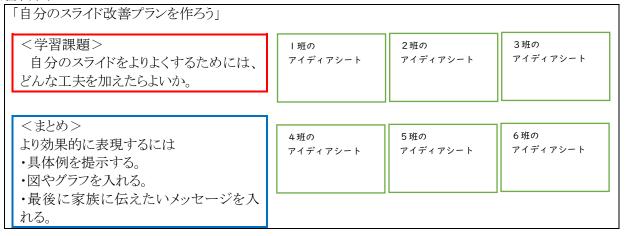
○生徒の発表を聞 きながら板書し ていく。

自分の改善プラ ンを立てる (5分)	・最後に家族に伝えたいメッセージを入れる T8 このような改善案を、自分のスライドで修正すれば、よりよいスライドになりそうですね。 T9 最後に、今日の学習で自分が厳選した改善プランを4つ選び、ワークシートの後ろに貼りましょう。 友達やほかの班のアイディアの中で、いいものを見つけたら、付箋に書き、自分のアイディアに加えてもいいです。	○自分にはない、 友達の発表の良 さに着目させる。
【終末】 振り返り (5分)	T10最後に振り返りをします。 今回は、初めて人工知能を使ってみました。スライドを改善するために、人口知能は有効でしたでしょうか。 振り返りをフォームで行います。 T11では、終わります。	○ワークシートを回 収する。 ○ロイロノート総合 に送られている Google フォーム に入力させる。

(4) 評価

家族に役立つ福祉情報を、自分の興味・関心、読み手の必要性に応じて取捨選択し、表現している。…【思考・判断・表現】(提出された改善シートにより評価)

7 板書計画



8 その他

生成 AI によるアドバイス

- ・ notebookLM による作品への助言
- ・プロンプト

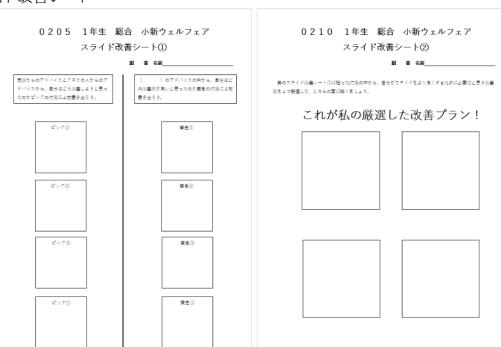
「これは、福祉の学習で学んだことを家族にプレゼンするためのスライドである。それぞれのスライドの内容に対して、良い点3個と改善点10個を箇条書きで出してください。ただし、中学生が傷つかないような丁寧な表現でお願いします。」

- Google フォーム振り返りの内容
 - (ア)スライドの改善策を考えるうえで、生成 AI からのアドバイスと人間(家族、友達)からのアドバイスをどの程度の割合で取り入れましたか。
 - (イ)スライドの改善策を考えるうえで、生成 AI からのアドバイスをもらうメリット(よさ)はど のようなところだと思いますか。

- (ウ)生成 AI を使ってみて、注意すべきところはどのようなところだと思いますか。
- 生成 AI からのアドバイスシート

さんへ Alからのコメント <良い点> ・耐知点の種類について、図を用いてわかりやすく説明しています。 ・闘知症予防のボイントを、食事、運動、社会参加の3つの製点から詳しく解説していま ・膠知症予防ワクチンについて触れている点は、最新の情報を盛り込むうとする姿勢が感じ <改善点> ・タイトルが実際としており、具体的な内容が伝わりにくいので、例えば「認知症を予防し」 よう」のように具体的なタイトルが良いでしょう。 ・福祉の定義について、冒頭で簡潔に説明すると、よのわかりやすくなります。 ・少子高齢化と人口減少の問題について、福祉との関連性を明確に説明すると、より理解が 深まります。 ・抑制症の種類について、それぞれの症状をもう少し詳しく説明すると、より理解が深まり ・認知症予防のポイントについて、具体的な事例などを交えて説明すると、よりイメージし ・動知症予防ワクチンについて、その効果や安全性について詳しく説明すると、より動得力 が増します。 ・介護福祉士や言語障害士の役割について、具体的な事例などを交えて説明すると、より理 解が深まります。 ・全体を通して、図やイラストなどを用いると、より視覚的にわかりやすくなります。 ・参考文献を記載すると、情報の信頼性が高まります。 ・最後のまとめについて、具体的な行動指針を提示すると、より説得力が増します。

・ スライド改善シート



Althioのコメント



11点) 実開題の原因を、少子萬略化と関連付けて分かりやすく疑問しています。

・空さ変があると、とのような問題が生じるのかを具体的に解説しています。

・空き変の有効活用方法として、具体的な例を複数学けています。

認識を高めることができます。 例えば、「空き変が増えると、景観が悪化するだけでほく、 犯罪の選択になるなど、他域社会に接々な悪影響を及ぼします」のように、全き専問題の影

・スライドのデザインがシンプルすぎて、少し寂しい日象です。背景に高像やイラストを入 響を具体的に示すと、聞き手の関心を高めることができます。 ・文字の色や大きさが単調なので、重要な部分を推薦したり、メリハリをつけると、より分 れると、より見やすくなると思います。

1887年後年代11人名ので、文章で提問する総分と原条書きで提問する総分を区別す かりやすくなると思います。

こといわれている様で説明したり、注

第3学年 道徳科学習指導案

令和7年2月10日(月)第5校時

 $(1\ 3:1\ 5\sim 1\ 4:0\ 5)$

指導者 教諭

- 1. 教材名「命と向き合う」内容項目 A-1 生命の尊さ
- 2. 主題について
 - (1) 主題名:命の尊さと生きる意味を考える
 - (2) 主題設定の理由

ア ねらいとする価値について

中学3年生は、自分の生き方や将来について考え始める時期である。道徳科では、自己と向き合い、他者と協力しながら共生するための価値観を養うことが求められる。本授業では、「命の尊さ」に焦点を当て、生徒自身が生きる意味を見出し、日常生活の中でどのように命を大切にできるかを考えさせる。

イ 生徒について

生徒の多くは、普段の生活の中で「命の大切さ」について深く考える機会が少ない。 戦争や災害のニュースを見ても、「他人事」として捉えがちである。しかし、家族やペットとの別れを経験した生徒もおり、その際に命の儚さや大切さを実感することもある。 本授業では、命の有限性や命のつながりを考えさせ、自己の生き方を深く見つめ直す契機としたい。

ウ 教材について 教材名:「命と向き合う」

人間は、生まれてくる確率が奇跡的であること、命がつながっていること、命には終わりがあることを題材にしている。本授業では、教材の内容を踏まえ、生徒同士での話し合いを通じて多面的に考える機会を提供する。

3. 本時の計画

(1) 本時のねらい

命について、グループ討論や生成 AI の利活用を通して、他者の意見を尊重しながら命の大切さを深く理解し、自分がどのように命を大切にするかを考え、行動につなげる態度を育また。

- (2) 本時の構想
 - ア 教材の一部を朗読し、命の奇跡について考えさせる。展開ではグループで「なぜ命は大切なのか」「命を大切にするにはどうすればよいか」について話し合う。終末では「命のある間を思い切り生きるとはどういうことか」について、自分の考えをまとめる。
 - イ 学習指導要領の示す資質や能力を育成することを念頭にして、生成 AI の利活用を行う。
 - ① 多面的・多角的な見方を補う。

ものごとを一面的ではなく、多面的、多角的に捉えるために生成 AI を活用する。 問いに対する答えを自分なりに考えた後、AI が生成した多面的、多角的な回答に触 れる。そのことによって、自分の考えを修正し、深める。その過程を経た後、話し 合いに参加することにより、より深まりのある話し合いを促す。

② 自分事として考え、意見を鵜呑みにせず、吟味する資質・能力を高める。 AI の生成する考えは「絶対的なもの」とは扱わず、「一例」として扱う。そのため、AI の生成した意見に、共感するか否か、そういう考えもあると思っていたか否かを、シンキングツールを用いて吟味させる。特に、そういう考えがあるとは思ってはいなかったが、共感できる意見に着目させ、自分の意見に取り入れさせる。



図「生成 AI が作成した回答例」左が T4 に対する回答、右が T5 に対する回答。

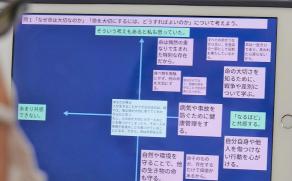
4. 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される生徒の反応	評価規準・留意点
導入 (10分)	T1. 小学校からの9年間の道徳で「命の尊	■ 主体的に参加してい
これまで命について学	さ」について、どんなことを学んできま	るか、命について関
んできたことを振り返	したか?	心を持ち、深く考え
り、本時の学習課題を	S1. 以前「命の選択」という学習をした。	ようとしているか。
確認する。	T2. 本時は、以下のことについて考えます。	○ あまり時間をかけず
	【学習課題】	に、できるだけ早く
	命を大切にするとは、どういうことか。	展開へ入る。
展開(30分)	T3. 教材を p154-p157 まで読む。	■ 命の大切さを自分な
教師の問いに対する回	T4. 「なぜ命は大切なのか」、そして「命を大	りに考えているか、
答を自分なりに考えた	切にするには、どうすればよいか」につ	他者の意見を尊重
後で、生成 AI や友達の	いて、考えましょう。	し、積極的に発言し
考えにも触れ、考えを	S2. 命は偶然の重なりで生まれた特別な存在	ているか。
広げ、深める。	だから。	○ 自分の考えをまとめ
	T5. あなたは「命のある間を思い切り生き	る時間を保障する。
	る」とはどういうことだと思いますか?	生成 AI の考えは、
	S3. 人を傷つけない、食べ物を大切にする。	後で配布する。
終末 (10 分)	T6. 「命のある間を思い切り生きるとは?」	■ 学習の振り返りを行
まとめ・振り返り	と個人で考え、その後、プロンプトを生	い、命についての考
	成 AI に入力する (※ 1)。最後に「生成	えが深まったか、自
	AI との対話から、さらに新しい気づきは	分の言葉で表現でき
	あったか?」と問いかける。	ているか。
	【まとめ】	
	命を大切にするとは、生きていることに感	
	謝し、何事にも全力で取り組むこと。	

※1 私は、命のある間を思い切り生きるとは「**他の命の恵みの中で生きていることに感謝し、何事 にも全力で取り組むことだと思います。**」命の尊さについて、より多面的、多角的に考えるためのアドバイスを150字で回答してください。

5. 本時の評価

命について、グループ討論や生成 AI の利活用を通して、他者の意見を尊重しながら命の大切さを深く理解し、自分がどのように命を大切にするかを考え、行動につなげる態度を育むことができたか。



そういう考えがあるとは私は思っていなかった。